

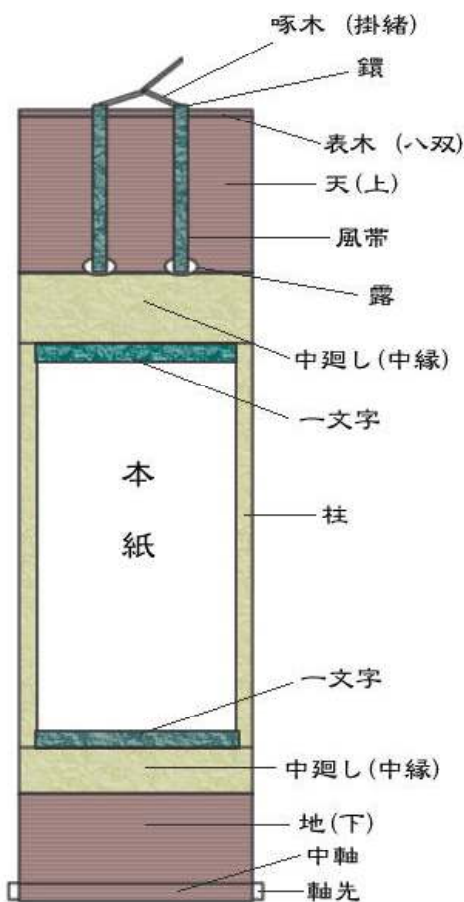
1 はじめに

掛け軸の表装は表具屋の仕事で、素人が立ち入る分野ではない…とっていました。たしかに、表装を誤れば元の作品自体が死んでしまいます。作品が高価なものであったり大切な1点ものであったりすれば取り返しがつきません。

ですから、本来表装という行為は素人のD I Yの域を越えているのですが今回峨山道道標の拓本を機にあえて挑戦することにしました。というのは、拓本の表装に失敗したとしても拓本そのものは石の道標がそこにある限り何枚でもとれるわけです。

とは言っても、拓本をとるという工程そのものが神経質な作業で本当は何回もやりたくない仕事なのですが、それでも同じものあるいはもっときれいなものがまたとれると思うだけで表装の敷居が低くなり挑戦してみようという意欲につながります。

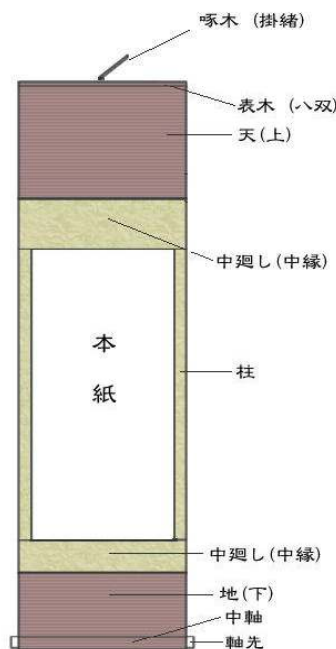
2 掛け軸各部の名称



<正式な掛け軸>

いたってシンプルなD I Y表装を提示しようというのに仰々しい名称図を並べて申し訳ありません。

これから表装の作業に入るにあたり部分の名称がわかっていたほうが作業工程が説明しやすいのであえて正式な掛け軸を提示しました。



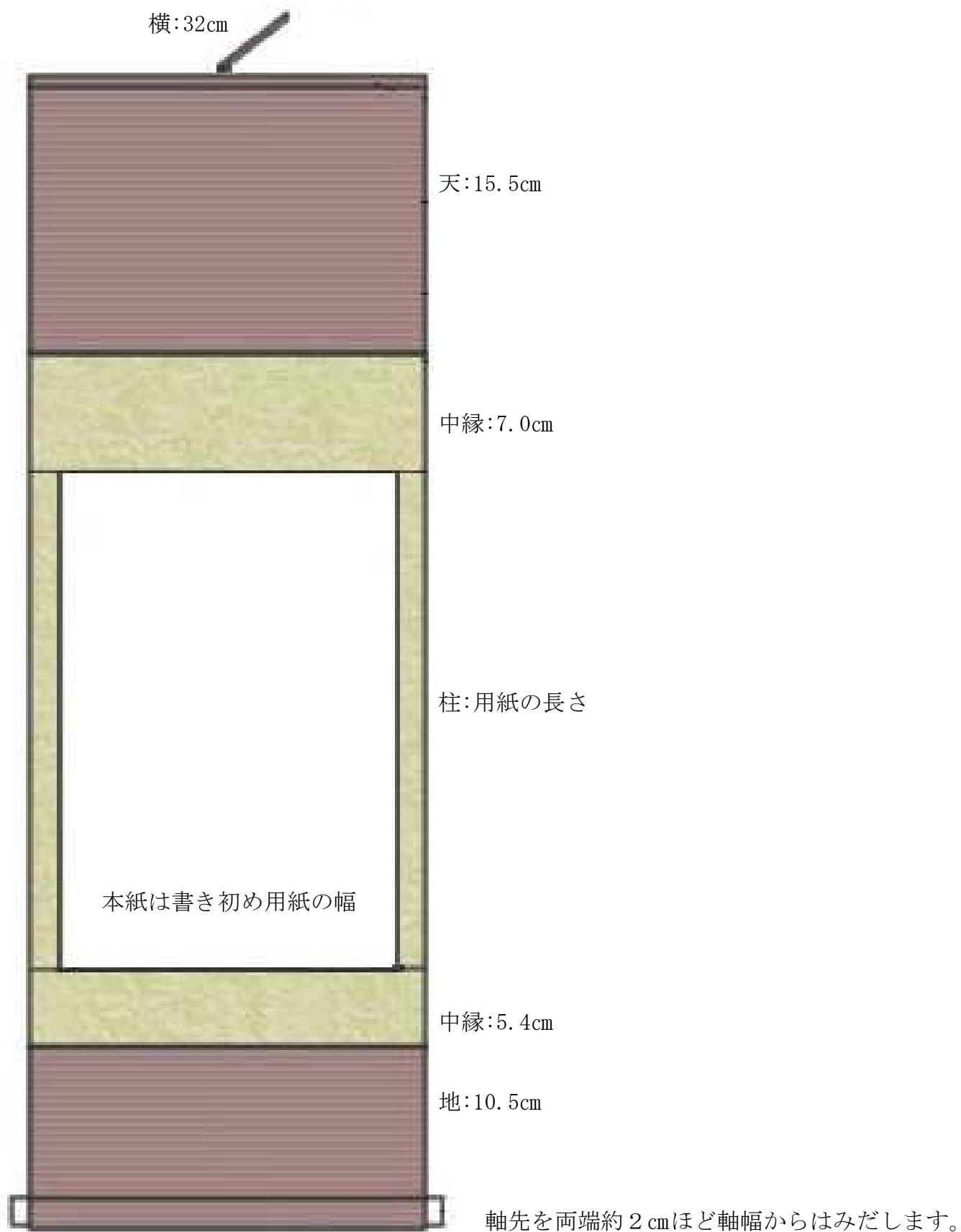
<D I Y掛け軸>

ただ、これから私が作ろうというものはD I Y掛け軸であって本来あるべきいくつかの部分省略します。

掛け軸らしければいいのですから。

左図がその手抜きをわかりやすく表したものです。

3 設計図



3 表装の材料

(1) 裏打ち



作品を和紙や布にのり付けするのが正式な裏打ちなのですが、DIYではそのような専門技術はありません。なにより道具と環境がありません。そこで「裏打ち」ならぬ「裏わざ」を試してみました。

のり付きのふすま紙です。

最初は水でぬらすタイプを試してみましたが、どうしても作品にしわがよってしまい仕上がりがよくありません。

次に試したのが左写真の「アイロン貼りふすま紙」です。これは優れもので作品や作品周りの和紙にも全くしわがよりません。

ホームセンターで2枚入りで1,980円とやや高額ですが、これで道標拓本の掛け軸の台紙が6枚とれます。1枚あたり300円そこそこですからまあ良しとしましょう。



たて180cm横95cmのふすま紙をたてに3等分します。

すると、たて180cm×横32cmのものが3枚とれます。基本的に横の寸法はこのまま使います。

(2) 材料



近頃のホームセンターにはないものはありません。左写真の加工木材をそれぞれ買ってきます。

丸棒：径2.5cm×長さ90cm（中軸用）

半月：径1.5cm×長さ90cm（表木用）

丸棒は中軸用なので軸先の寸法も考慮して37cmに切断して、両端をサンドペーパーで磨き黒ニスで仕上げます。（軸先以外は和紙で隠れますので白木のままにしておきます）

表木用の半月材は台紙と同じ長さに切断し、断面は同様にペーパーで磨き、断面のみを黒塗装します。

あとは中縁、柱用の和紙（無地）と天、地用の模様和紙の2種類の和紙を準備します。ただ、この和紙の色の組み合わせによって仕上がりの見栄えが大きく異なりますので色の選択はよく吟味する必要があります。ちなみに、私は中縁、柱用の和紙は薄緑や薄茶といった淡い色を使用しました。天、地は模様入りの白地と茶地を使ってみましたが、白地の方が好みに合いました。

4 表装の工程



まず台紙のアイロン面に拓本を載せておおよその左右の間隔を決めます。



次に柱用の和紙を台紙から少しはみ出す程度の大きさに切って拓本の縁に5mm程度かぶせてのり付けします。全体をアイロンがけして台紙に貼り付けます。

もともと拓本にはしわや文字のへこみに多少の破れがあるかもしれませんが、このアイロンでの熱圧着によってほとんど目立たなくなります。この点がアイロン台紙の最大の利点です。



同様にして中縁と天、地の和紙をアイロンで圧着します。和紙の貼り付けが完了したら、台紙を裏返して台紙からはみ出た和紙をカッターナイフで切り落とします。

最後に表木と中軸を台紙と和紙で巻くようにのりで貼り付けます。

ちなみに表木と中軸を巻くための台紙と和紙のそれぞれののりしろは昔数学で習った円周の長さ=直径×3.14の計算で求めます。

子どものころ円周率なんて生涯使うことなんてないと思っていましたが、実は掛け軸の表装をするときに使うんです。

仕上げの掛緒(つるすひも)は正式には2点掛けですが、表木の中央に極小ヒートンを打って単純にDIY表装らしく1本で仕上げました。このほうがシンプルでしかも調整なしでまっすぐ垂れるので結果として良かったです。



5 作品3点

鬼屋 古和秀水道標



穴水町 上中道標



鬼屋 たかを山みち



「古和秀水」道標はやや墨が薄く、一方「上中」道標は濃すぎた感があります。「たかを山みち」道標は石の風化が激しく拓本の文字も不鮮明なものしか採れませんでした。しかし、これはこれで歴史を感じる味わいのある拓本としましょう。

そんなこんなで、「古和秀水」の拓本掛け軸は都合10本ほど制作しました。郷土史研究会メンバーや峨山道巡行の関係者に無理矢理もらっていただいて自己満足しています。